

体力づくり歩け歩け大会

期 日 令和元年10月13日

行き先 名和方面（御来屋港ほか）



名和神社

後醍醐天皇を隠岐の島から迎え、一族郎党を率いて船上山に立てこもり、王事に奮戦した南朝の忠臣・名和長年公をはじめ、一族郎党42人の英魂をまつた元別格官幣社です。現在の名和神社は、明治16年に旧社(今の氏殿神社)をそのままに新しく建てたものです。神社の規模としては鳥取県内でも最大級を誇り、明治16年に初めて参道に桜が植えられて以来、山陰有数の“サクラのトンネル”としても有名です。



住吉神社



摂津の国にある官幣大社・住吉大社の分霊がまつられている神社で、後醍醐天皇が隠岐の島から御来屋(みくりや)に上陸した際、こちらに奉幣したという伝説があります。この神社は、11月3日の文化の日に隔年で開催される、住吉船曳神事(すみよしふなひきしんじ)が有名です。海の男たちの安全を祈願するお祭りだと言われています。

県漁協御来屋支所・お魚センターみくりや

境港に次ぐ県西部の主要港として、豊富な漁獲量を誇っています。定置網、刺し網による漁が盛んで、特にサザエは県下一の漁獲量を誇ります。大山町の名産として、サザエ飯など様々な漁師料理、郷土料理が生み出されてきました。ここでは、御来屋の港で揚がった魚をメインに、境港や賀露港など鳥取県を代表する港から直送された旬のお魚が販売されています。御来屋漁港の魚たちは、いずれも水揚げされてから2時間以内に店頭に並んでいます。



元弘帝御着船所の碑・御腰掛の岩

「元弘帝御着船所の碑」 お腰掛けの岩のすぐ南にあり、後醍醐天皇が御来屋に上陸した時にしばらく天皇をかくまった家に対して、後に鳥取藩がその功を賞して碑を建てたと言われています

「御腰掛の岩」 後醍醐天皇は、一度失敗した倒幕と天皇中心の政治への野望を捨てきれず、幕府軍に閉じこめられていた隠岐の島から脱出し、たどり着いたのが「名和の湊(今の御来屋港)」です。この時、疲れた天皇が体を休めるため、海岸にあった大きな岩に腰をかけたという言い伝えから、この岩を「お腰掛けの岩」と呼んでいます。30年ほど前までは海中にありましたが、漁港の改修により海面から1.4m持ち上げられ、現在では陸の上に位置しています。

次回は11月10日(日)、行き先は「松江方面(楽山公園ほか)」
8時 米子市駅集合 1日コースです。